

1) 生育状況について

山田錦の生育状況は、草丈は低く、茎数は多い傾向となっています。出穂期は平年並か平年より2~3日早い見込みです。

病害は、いもち病・紋枯病が一部の圃場で見られましたが、発生は少ない状況です。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が見られましたが、発生は少ない状況です。カメムシ類では、イネカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメが一部圃場で発生しています。

病虫害	いもち病 紋枯病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ (秋ウンカ)	カメムシ類	山田錦	草丈 c m	本年	98.9
							過去3年	99.8
発生現況	少	少	無	少		比	99.1	
						本年	25.6	
発生予想	平年並	平年並	平年並	多		茎数 本	過去3年	21.9
							比	116.9

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは現在、登熟期間中です。早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7~10日前まで適度な湿りを保ちましょう。山田錦は出穂の時期を迎えます。出穂後は地温を下げるため、間断灌水を心がけましょう。

病害は今後の天候によっては発生の可能性があるため、引き続き注意が必要です。

虫害は、ウンカ類については、防除が必要な密度には達していませんが、収穫時期の遅い山田錦では引き続き秋ウンカの発生にも注意してください。

カメムシ類については、防除が必要な圃場があります。今後一か月の平均気温は高いと予想されており、増殖に好適な条件となるため、圃場で発生状況を確認して対策を実施しましょう。

3) カメムシ類対策について

山田錦が出穂を迎えます。カメムシ類の予防を徹底しましょう。

1回目: 出穂7日前 2回目: 出穂5~7日後

スタークル粒剤 (3kg/10a、収穫7日前まで、3回以内) 又は
スタークル豆つぶ (250g/10a、収穫7日前まで、3回以内) で防除しましょう。

2回防除により、不稔と斑点米の被害を軽減できます。

1回目の防除をされていない方は、8月末に上記薬剤で防除を行いましょう。

4) その他

9月に入りますと、コシヒカリ、キヌヒカリの収穫時期になります。「平均的な穂の充実した籾の85%が黄化したとき」が刈取適期です。早刈り、遅刈りを避け、適期収穫に努めましょう。

次回の調査予定日は、令和7年9月5日(金)です。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL: 078-981-5540 FAX: 078-981-5817

1) 生育状況について

コシヒカリ・キヌヒカリ・山田錦の生育状況は、どの品種も草丈はやや低く、茎数が多いです。

病虫害の発生状況は、カメムシ類（イネカメムシ含む）については管内全域で多く発生しています。ウンカ類についてヒメトビウンカ、セジロウンカの発生は少ないです。トビイロウンカ（秋ウンカ）は確認されませんでした。

いもち病や紋枯れ病については発生が見られませんでした。

病虫害	いもち病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ	カメムシ類
発生現況	無	微	無	多
発生予想	平年並	平年並	平年並	多

品種	項目	年次	8月1日
コシヒカリ	草丈 cm	本年	109.4
		過去3年	109.9
		比	99.5
	茎数 本	本年	27.7
		過去3年	25.6
		比	108.2
キヌヒカリ	草丈 cm	本年	93.5
		過去3年	97.2
		比	96.2
	茎数 本	本年	23.2
		過去3年	21.3
		比	108.9
コノホシ	草丈	本年	86.9
	茎数	本年	27.1
にじのきらめき	草丈	本年	85.7
	茎数	本年	21.1
山田錦	草丈 cm	本年	73.2
		過去3年	83.6
		比	87.6
	茎数 本	本年	24.3
		過去3年	22.0
		比	110.5

2) 今後の栽培管理について

・コシヒカリ、キヌヒカリ

出穂～穂揃い期に入っています。出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは飽水管理（田面に水がたまらない程度）により、根の活力を維持しましょう。

・山田錦

穂肥の時期になります。幼穂の長さを測って出穂時期を確認し、穂肥を適期に施用しましょう。特に、2回目の穂肥は粒張りを向上させる重要な作業です。

3) カメムシ類対策について

《防除時期と薬剤》

薬剤名	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	総使用回数
キラップ粒剤	3kg/10a	湛水散布	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール2回以内
スタークル粒剤	3kg/10a	散布	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン 本田での散布は3回以内
スタークル豆粒	250g/10a	散布	収穫7日前まで	3回以内	

1回目…出穂7日前 → 不稔米対策

2回目…出穂5～7日後 → 斑点米対策

以上の2回防除をしましょう。

粒剤は湛水状態で均一に散布し、散布後は4～5日は湛水状態を保ってください。

4) 水管理について

吞吐ダムの貯水率は未だに低い状況です。今後も限られた水を大切に使いましょう。出穂前後（出穂前1週間～出穂後1週間）は稲が水を必要とする時期です。圃場の乾きすぎには注意しましょう。早期落水は未熟粒・死米・乳白・胴割れの原因となるため注意しましょう。

次回の調査予定日は、令和7年8月19日（火）です。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL：078-981-5540

FAX：078-981-5817

1) 生育状況について

コシヒカリの生育状況は平年に比べて草丈は高く、茎数は多くなっています。キヌヒカリの草丈は平年並み、茎数は多くなっています。山田錦の草丈は少し低く、茎数は多くなっています。

病害の発生状況はありませんでしたが、引き続き注意して観察してください。ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が少し見られました。斑点米カメムシ類は多発しています。

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは出穂期に入ります。出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは飽水管理を行い、根の活力を維持しましょう。

山田錦は今後幼穂形成期に入ります。現在の生育は茎数が多くなっていますので、早めに中干しを行い過剰な分けつを防ぎましょう。中干しを終えたら、出穂が始まる1週間前まで間断灌水を実施しましょう。

病害は、見られませんが今後暑い日が続く予報が出ているので、引き続き注意が必要です。虫害は、ウンカ類は発生が少ないですが、今後注意してください。

3) 斑点米カメムシ類について

斑点米カメムシ類は多発しています。①と②の対策を徹底してください。

① 畦畔の草刈りは、出穂の2週間前までに行ってください。出穂の直前に畦畔の草刈りを行うと、斑点米カメムシ類を本田に侵入させることになり、斑点米の原因となりますので注意してください。

② 出穂前(穂が出始める前、穂を包む葉鞘が膨らむ時期)と出穂後(出穂後5-7日後)の2回防除を行ってください。薬剤に関しては、スタークル粒剤もしくはスタークル豆つぶを散布してください。**4) その他(雑草対策)**

アトカラSジャンボMX (移植後14日～ノビエ3.5葉期、但し収穫45日前まで)

適用雑草名：一年生雑草、及びマツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、コウキヤガラ、キシユウスズメノヒエ

サンパンチ1キロ粒剤 (移植後15日～ノビエ3.5葉期、但し収穫60日前まで)

適用雑草名：一年生雑草、多年生広葉雑草、キシユウスズメノヒエ、アオミドロ・藻類による表層はく離

バサグラン液剤 (移植後15日～収穫45日前まで)

適用雑草名：一年生雑草(イネ科を除く)、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、エゾノサヤヌカグサ、シズイ、クサネム

ラベルを確認して雑草に適切なものを選んで防除しましょう。お困りの際は、お近くの支店の営農相談員または神戸北宮農総合センターまでお問い合わせください。

品種	項目	年次	7月16日
コシヒカリ	草丈 cm	本年	87.9
		過去3年	80.2
		比	109.6
	茎数 本	本年	29.6
		過去3年	22.9
		比	129.3
キヌヒカリ	草丈 cm	本年	76.7
		過去3年	76.1
		比	100.8
	茎数 本	本年	25.9
		過去3年	19.7
		比	131.5
山田錦	草丈 cm	本年	53.5
		過去3年	57.8
		比	92.6
	茎数 本	本年	27.1
		過去3年	20.8
		比	130.3
コノホシ	草丈 cm	本年	75.5
	茎数 本	本年	40.2
にじの きらめき	草丈 cm	本年	71.2
	茎数 本	本年	23.9

渇水警報発令中！！(東播用水ホームページより)

今年は雨が少なく、大川瀬ダムと吞吐ダムの貯水率が低い状況にあります。今後は限られた水を有効に使うことが大切です。漏水に注意してください。

次回の調査予定日は令和7年8月1日(金)

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL: 078-981-5540

FAX: 078-981-5817

神戸市北区内の水稲生育状況及び病虫害発生状況について6月27日に調査しました結果を本紙にてご案内いたします。今後の水稲栽培管理にご活用ください。

1) 病虫害について

病虫害	発生程度	発生予想	今後の対策
いもち病	無	並	緊急の対策は必要ありません。 圃場観察と栽培暦に準じた適期防除に務めてください。 一方で、今年もイネカメムシが多く発生されることが懸念されています。効果的に防除するために圃場をよく観察してください。出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行いましょう。
縞葉枯病	無	並	
セジロウンカ	無	並	
ヒメトビウンカ	無	並	
ツマグロヨコバイ	無	並	
斑点米カメムシ	無	並	

※発生程度の小さい順に、無・微・少・中・多・甚（中以上で要防除）

2) 生育状況について

品種名	草丈	莖数	今後の栽培管理について
コシヒカリ キヌヒカリ	並	少～並	<u>中干し時期が近づいてきております。</u> 莖数を確保（16～17本/株）できれば開始してください。また <u>ガスの発生に注意</u> してください。ひどい圃場は2、3日落水を行いましょう。
山田錦	並	少～並	<u>7月中旬頃に中干し時期になります。</u> 莖数を確保（15～19本/株）できれば遅れずに開始し、倒伏しにくい稲株にしまししょう。

3) その他

兵庫県病虫害防除所よりいもち病の発生予想は「平年並」、「ウンカ類」の発生予報は「平年並」と予想されています。

一部圃場にて藻類の発生やホタルイ等の雑草が見られましたので、圃場をよく確認して下さい。

薬剤	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	使用回数
モゲトン粒剤 (移植水稻)	ウケサ類、藻類 (アオミドロ・アマミドロ)	ウケサ類・藻類の発生始め～発生盛期（収穫45日前まで）	2～3kg	3回以内
クインチャーバス ME液剤 (移植水稻)	一年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ウリカ、ミスガヤツリ、ハラオモダカ、オモダカ、セリ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、キシュウスズメノヒエ	移植後15日～ルビエ5葉期、 (収穫50日前まで)	薬量: 1000ml 希釈水量: 70～100ℓ	2回以内
アレイルSC (移植水稻)	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後20日～ルビエ5葉期、 (収穫45日前まで)	薬量: 500ml 希釈水量: 50～100ℓ	1回以内

※次回から配信はLINEのみとさせて頂きます。よろしくお願ひ致します。

次回の調査予定日は、令和7年7月16日（水）です。
お問い合わせ先 神戸北宮農総合センター
TEL: 078-981-5540 FAX: 078-981-5817